



# 松本若者フレスト



## R6年度 第1回実施報告書

- ★ 開催日時 令和7年3月6日 午前10時～11時15分
- ★ 開催場所 市役所 市長応接室
- ★ 参加グループ 信州大学 モルックサークル  
「信州まつぼっくり」
- ★ 参加人数 6名



テーマ 「モルックの積極的な活用について」



### 提案・意見

- 1 福祉ひろばへのモルック設置を
- 2 小中学校教育へのモルックの活用を
- 3 市民スポーツ大会等へのモルックの採用を



## 令和6年度第1回 松本若者ブレスト 意見交換内容

- 1 モルックとは  
特徴 「老若男女問わず、一緒になって楽しめる“活躍できる”スポーツ」
- 2 グループ概要  
信州大学 モルックサークル「信州まつぼっくり」  
令和6年4月発足  
サークル13名（内、ブレスト参加者6名）
- 3 グループの活動実績
  - (1) 体験会活動
    - ・発足1年弱で、計18回体験会を実施  
主な活動場所：岡田地区福祉ひろば、安原地区福祉ひろば、中山地区等公民館、病院、企業等
    - ・令和6年10月 街中モルック体験会主催（松本城大手門柵形跡広場）
  - (2) 大会戦績
    - ・令和6年8月世界大会in函館に出場→決勝トーナメント進出
    - ・令和6年11月日本大会出場→予選グループ3位敗退
    - ・令和6年度モルック千曲杯長野県最強コンビ決定戦 →優勝、準優勝（初タイトル!）
    - その他、地方大会への参加多数

## 4 意見交換

①各地区福祉ひろばへのモルックの設置を	
意見内容	市長回答
・福祉ひろばで体験会をやっているが、室内でできるため天候に左右されず、高齢者の健康促進も期待できる。年齢、性別を超えて一緒になって楽しめるという特徴が、福祉ひろばで活用する利点になる。 ・参加者から、若者ともっと交流をしたい、という声も上がっている。 ・福祉ひろば間での交流につながることも期待しているため、福祉ひろばでモルックを設置してほしい。	○松本市内の福祉ひろば37館中、19館がモルックを実施している。（モルックを備品としてある福祉ひろばは、10館） ○福祉ひろばのコーディネーターが一堂に会する場に、まつぼっくりさんに来ていただき、その場でモルックのデモンストレーションをして、まずは、ひろばの担当者にモルックを知ってもらうことから始める。 ○興味のある地区を募って、備品等については、予算措置するなど進めていく。 ○福祉ひろば以外に、公民館を含めて広めていくことも視野に入れてほしい。



②小中学校教育へのモルックの活用を	
意見内容	市長回答
<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体的能力に関わらずできるため、スポーツが苦手な子でも成功体験を積むことができ、子どもの健全な成長につなげることができる。</li> <li>・計算をする競技でもあるため、計算能力の向上につなげられるのでは。</li> <li>・小中学生が福祉ひろばをモルックを通じて利用することになれば、世代間交流もできる。</li> <li>・モルック部を創設してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○波田小学校で総合的な学習でモルックを実施したことがある。</li> <li>○丸ノ内中学校では、授業参観後の親子のレクリエーションで実施。保護者が木材を提供したものを教員がモルック用にカットした。生徒も保護者も楽しんだ。</li> <li>○年齢にとらわれず身体的能力に関わらずできるという点が特徴で、子どもからお年寄りまで広く楽しめるということが分かった。知らない人にまずモルックの存在を知ってもらうために、校長を通じ紹介し、その上で学校側からリクエストがあるか確認したい。</li> <li>○部活動を地域クラブに移行していくことになっているが、部活動だとハードルが高かったものが、太鼓や競技麻雀などクラブで行っているものもあるので、自発的にそういう声があがれば不可能なことではない。</li> </ul>

③市民スポーツ大会、市長杯等競技種目へのモルックの採用を	
意見内容	市長回答
<ul style="list-style-type: none"> <li>・孫の世代から祖父母の世代まで競い合うことができる。様々な世代同士でチームを組むことができるし、対戦することもできる。</li> <li>・スポーツが苦手な人でも始めやすい。</li> <li>・特別な土地(会場)は必要ないため、道具1つで始めることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○市民スポーツ大会は一部の固定化した参加者となっている現実があり、課題である。参加者の年代も人数も多くなるよう、進化させたいところ。</li> <li>○地区対抗競技は競技が決まっているので、一般競技の種目にモルックを追加することは不可能なことではないが、運営する主体となる団体がないとうまく進めることができない。まずは、『松本市モルック協会』を作ってほしい。信州大学のサークルが中心となって協会を作れば、みんながやろうとしている普及活動等もうまくいくと思う。</li> <li>○サークルメンバー全13名という人数でどこまでできるか、という課題もあるが、主体となる団体(協会)ができることがとても重要で、すべての突破口となる。仲間を増やすことも考えてほしい。</li> </ul>

参加された皆さんからの感想
<ul style="list-style-type: none"> <li>◎福祉ひろばや学校での状況を聞くことができ、有意義な時間となった。</li> <li>協会を設立するということもいずれできたらいいなと思っていた程度だったが、具体的に何をすべきか目標ができた。</li> <li>◎これから積極的に活動していくことへの活力となった。</li> </ul>

信州まつぼっくりの皆さん、  
ご参加いただき  
ありがとうございました♪